

仁科地区森林環境保全整備事業（育成受光伐）【R 7 補正翌債・競争】

## 作 業 仕 様 書

本請負事業の作業仕様書は、次のとおりとする。

製品生産事業請負標準仕様書（令和 6 年 3 月 1 日以降）

関東森林管理局製品生産仕様書（令和 5 年 3 月 1 日以降）

検知業務仕様書（最終改正 2 関資第 2 号令和 2 年 4 月 7 日）を適用する。

## 特記仕様書及び特記事項

本請負事業に係る特記仕様書及び特記事項は下記のとおりとする。

### 特 記 仕 様 書

別紙 「森林作業道に係る特記仕様書」のとおり

### 特 記 事 項

#### 1. 法令関係について

国有保安林内で事業を実行するため、立木等の伐採協議及び土地等の形質変更の協議が必要であり県知事の承認を得ることとなるため、作業前に請負者と監督員等は現地を調査し協議申請手続きを行い、県知事の承認を得た後に作業を開始すること。

#### 2. 国有林野の貸付地或いは民有地を使用する場合等について

- （1）事業箇所周辺等には国有林野を第三者に貸し付けている国有地や民有地が所在している場合もあり、事業実行上、それらの土地の使用が必要となる場合は、事前に事業者責任において当該土地地権者等の承諾等を得ること。
- （2）事業実行にあたり、地元住民や土地権限者等と十分な意思疎通を図るとともに、事故・紛争等が生じないように努めること。
- （3）事業箇所内及び周囲においては山葵田が多く点在しているため、土砂・泥水・濁水の流出に十分留意して施業すること。

### 3. 事業用車両の通行について

- (1) 事業用運搬路として公衆に供する道路や林道を通行するにあたっては、道路敷・周辺構造物等の第三者所有物に損害を与えないこと。また、林道及び道路施設への損傷や汚損するような行為があった場合は、原因者負担により対処すること。
- (2) 車両の安全通行、過積載防止等については、法令に基づき荷主又は事業者の責任により行うこと。また、運搬経路に道路規制等がある場合は、関係機関に必要な手続きを行うこと。

### 4. 山火事発生時における消火活動等への協力について

請負者は、事業実行期間中において、山火事や集中豪雨等に伴う土砂災害が発生した場合は、消火活動や復旧作業等への協力に応じること。

### 5. トラック運材

製品生産事業請負標準仕様書第34条第2項に定める封印の対象は、国有林外へ運搬する場合とする。

封印は、監督職員の指示を受けて行うものとし、発送時点において荷締策の結び目等を開封まで外すことができないように行うものとする。

### 6. 山元完了桟の検知業務の実施について

山元検知については、「検知業務仕様書」に基づき実施すること。

### 7. CSF（豚熱）の感染拡大防止のため、静岡県におけるCSF対策を熟知して適切な対策に努めること。

### 8. 事業進捗状況管理

- (1) 製品生産事業請負実行管理基準に定める作業日報は、様式2により作成すること。
- (2) 毎月、様式1「工程管理表（月別）」を作成し、翌月10日までに提出すること。  
また、事業終了時には「工程管理表（最終）」を提出すること。

### 9. 森林作業道の作設について

- (1) 森林作業道の作設は「森林作業道作設指針」（平成22年11月17日付け22林整第656号林野庁長官通知）に基づき行うこととし、別紙「森林作業道に係る特記仕様書」のとおりとする。
- (2) 請負者は、作設する森林作業道の路網計画を明示した図面を含めた事業計画書を森林管理署長等に提出し、承認を受けなければならない。
- (3) 請負者は、(2)で承認された森林作業道の路網計画に変更が生じたときは、その内容について事業計画を変更のうえ発注者に提出し、承認を受けなければならない。
- (4) 発注者は、伐採・搬出期間中及び搬出後の契約履行状況等を確認し、確認を受けた路線等が路網計画と異なる施工等により、林地保全上特に問題があると認めるときは、請負者の負担において盛土の転圧、排水溝の設置等の必要な措置を命じること。

とができる。この場合において、請負者は発注者の命に応じ、必要な措置を講じなければならない。

#### 10. 公道沿いの作業実施について

- (1) 公道沿いでの伐採作業にあたっては、作業区間の前後に注意看板を設置し周知すること。
- (2) 伐倒の際は、伐倒方向を適切に設定するとともに、公道側へ倒木しないよう必要な防止措置を講じて安全に作業を行うこと。

工程管理表( 月分、最終)

分任支出負担行為担当官  
森林管理署長 殿

事業体名		主 間 伐 別	
契約事業名		生産量 ( m3 )	当 月
事業期間	～	作業道 ( m )	当 月

作業工程	使用機械	当 月						累 計						生産性 A/B (m3/人日)
		作 業 間 (時間)	人 工 数 (人日)	機 械 運 時 (H)	燃 料 給 量 (ℓ)	油 給 量 (ℓ)	脂 油 量 (ℓ)	作 業 間 (時間)	人 工 数 (B)	機 械 運 時 (H)	燃 料 給 量 (ℓ)	油 給 量 (ℓ)	脂 油 量 (ℓ)	
伐 倒	チェーンソー													
	ハーベスタ													
	そ の 他													
	計													
木 寄 材 集	グラップル													
	グラップルウインチ													
	S ヤ ー ダ													
	T ヤ ー ダ ー													
	集 材 機													
	そ の 他													
	計													
造 材	プロセッサ													
	ハーベスタ													
	チェーンソー													
	そ の 他													
	計													
運 材	フォワーダ													
	そ の 他													
	計													
巻 立 て	グラップル													
	そ の 他													
	計													
作業道作設	カッター刃付き グラップルバケット													
	グラップルバケット													
	バックホウ													
	そ の 他													
	計													
架 線 ・ 撤 収														
片 付 ・ 整 理	検 知													
	機械搬入・搬出													
	踏 査													
	打合せ・安全会議													
	そ の 他													
	計													
合計(時間)														

注1 本様式は毎月作成し、翌月10日までに提出する。事業終了後は完了検査までに最終版を提出する。  
注2 本様式は、主伐、間伐、合算したものをそれぞれ提出する。  
注3 当月生産量欄には、月ごとの検査済数量(=部分払数量)を記入する。  
注4 生産量欄は、生産量累計(作業道延長累計)を人工数で除して求めた数値(小数点一位止)を記入する。

作業日報

年 月 日		天 候	
契約事業名			
作業箇所		主間伐別	

作業工程	作業者												計 (h)	作業量 (㎡・m) (本・台)
	使用機械													
伐倒	チェーンソー													
	ハーベスタ													
	その他													
木寄せ集材	グラブブル													
	グラブブルウインチ													
	Sヤーダ													
	Tヤーダー													
	集材機													
	その他													
造材	プロセッサ													
	ハーベスタ													
	チェーンソー													
	その他													
運材	フォワーダ													
	その他													
巻立て	グラブブル													
	その他													
作業道作設	カッター刃付き グラブブルバケット													
	グラブブルバケット													
	バックホウ													
	その他													
架線・撤収														
検知														
機械搬入・搬出														
踏査														
打合せ・安全会議														
その他														
計	(時間)													
伐倒(存置型)														

注1 本様式は、主伐、間伐別に作成する

注2 作業行程ごとの使用機械は、実態に合わせて書き換えて使用する

注3 作業時間は休憩時間を含まない実働時間を記入する。軽微な機械修理、待ち時間は実働時間に含めて記入する

注4 木寄せ集材欄には、グラブブル、スイングヤーダ等による林地から作業道端までの集材に係る作業時間を記入する。

注5 運材欄は、フォワーダ等による作業道から山元土場までの搬出に係る作業時間を記入する。

注6 作業道欄には作業道作設・土場作設・支障木伐倒など作設及び修繕などに係る作業時間を記入する。

## 森林作業道に係る特記仕様書

本特記仕様書は、「森林作業道作設指針」（平成２２年１１月１７日付け２２林整第６５６号林野庁長官通知）に基づき、地形・地質、気象条件やこれまでの関東森林管理局管内における路網施工状況等を踏まえ定めたものである。

作設する路網は間伐等による木材の集材・搬出、主伐後の再造林等の森林整備に継続的に用いられる森林作業道であり、路体は堅固に締め固めた土構造を基本に、構造物は地形・地質等の条件からやむを得ない場合に限り設置することとし、本特記仕様書により作設する。

なお、本特記仕様書に指定していないものについては、森林作業道作設指針によることを基本とする。

### 第１ 路網

#### １ 配置

路網は、フォワーダ等車輛系林業機械（以下、林業機械等という）が安全に走行でき、かつ作業システムの効率性が効果的に発揮されるよう次の点に留意し配置する。

- ① 地形・地質の安定している安全な個所を通過するよう配置する。
- ② 地形に沿った屈曲線形となるよう配置する。
- ③ 排水を考慮した波形勾配となるよう配置する。
- ④ 急勾配区間とカーブの組み合わせは極力避けるよう配置する。
- ⑤ Ｓ字カーブは連続して設けないようにし、カーブ間に直線部を設けるよう設置する。

#### ２ 幅員

幅員は、３ｍ以下とする。ただし、林業機械等を用いた作業の安全性及び、作業性の確保に必要な区間に限って、０．５ｍ程度の余裕を付加することができる。

#### ３ 勾配・排水

縦断勾配は、土質や使用する機械の能力等を考慮し、集材又は苗木等の運搬作業を行う林業機械等が、木材等を積載し安全に上り走行・下り走行ができる勾配で計画する。

横断勾配は、原則として水平とするが、水平区間など危険のない場所で、横断勾配の谷側をわずかに低くする排水方法を採用する場合は、必要に応じて丸太等による路肩侵食保護工、盛土のり面の保護措置をとる。

特に、木材積載時の下り走行におけるブレーキの故障や、雨天や凍結時のスリップによる転落事故を防止するため、カーブの谷側を低くすることは避ける。

排水は、縦断勾配を緩やかな波状にすることにより、こまめな分散排水を行うこととし、排水先は安定した尾根部や常水のある沢にする等して、路面に集まる雨水を安全、適切に処理するとともに次の点に留意する。

- ① カーブ区間に係る排水は、カーブ上部の入り口付近で行う。
- ② 地下水の湧出又は地形的な条件による地表水の局所的な流入又は滞水がある場合には、これらを側溝又は横断排水施設等により排水する。

## 第2 施工

### 1 切土

切土高は、ヘアピンカーブの入口など局所的にやむを得ない場合を除き、1.5 m 程度以内とする。

切土のり面勾配は、直切りを標準とする。ただし、切土高が高くなる場合、または、土質に応じて6分（岩石の場合は3分）とする。

### 2 盛土

盛土については、地山を段切りして基盤をつくった上で、30 cm程度の層ごとにバケット及び履帯を用いて十分に締め固める。

なお、緊密度の低い土砂の場合は、盛土・地山を区分せず、路体全体を30 cm程度の層ごとに締め固め、路体全体として十分な強度をもたせる。

盛土のり面勾配は、概ね1割とする。盛土高が2 mを超える場合は、1割2分程度とする。

ヘアピンカーブの盛土箇所では、締め固めを繰り返し行ったり、構造物を設けるなどして、路体に十分な強度をもたせる。

盛土の土量が過不足する場合は、山側から谷側への横方向での土量調整だけでなく、前後の路床高の調整など縦方向での土量調整も行う。

### 3 簡易構造物等

構造物は、安全確保の観点や地形・地質等の制約から、やむを得ない場合にのみ設置する。その場合、転石等現地発生資材の活用を図りつつ、利用の頻度やコスト等を考慮して適切なものを選定する。

### 4 伐開

伐開は、作設箇所ごとにおける斜面の方向、風衝等を考慮し、必要最小限の幅とする。

## 第3 周辺環境への配慮

森林作業道は、人家、道路、鉄道その他重要な保全対象（以下、人家等という）又は水道の取水口が存在する場合は、その直上では極力作設しない。

事業実行中は、人家等に対し、土砂の流出、土石の転落及び伐倒木等の落下を防止するために必要な措置を講じる。

また、希少な野生生物の生息・生育情報を知ったときは、監督職員に報告し、指示を受ける。

## 第4 その他

### 1 表土、根株の扱い

根株やはぎ取り表土は、盛土のり面保護工として利用する。表土は心土と交互に概ね30 cm毎の層毎にバケット等で十分締め固めて盛土法面に固定する。根株は、表土や心土等とともに十分締め固めるとともに作業に支障のないように固定する。

根株の上に根株を幾つも重ねて積み上げることや、根株を丸ごと路体内に完全に埋設することは、締め固めが難しくなるので避ける。また、土質、根株の大きさ、集材方法、山腹傾斜等から、盛土のり面保護工に向かない場合は、安定した状態にして自然還元利用等を図る。

### 2 事業終了時において、洗掘を防ぐための水切りを登坂部分等に入れる。